

1 作物

項目	作業内容
<p>(1) 麦の管理</p>	<p>(今月の作業管理のポイント) 麦の管理 水稻の育苗準備</p> <p>ア 土入れと排水対策</p> <p>これから茎立ち期にかけての土入れは、無効分げつ抑制、倒伏防止、雑草防除、土壌の過乾燥防止のほか、追肥を組み合わせることで増収になり、高品質・多収栽培には必須作業である。作業には、跳ね上げローター式の管理機等を用いて3～4cm程度の厚さに均一に土入れする。土入れ作業自体が溝さらえとなり、湿害防止となるので徹底して行う(写真1)。</p> <p>排水不良田では早めの排水対策が重要ある。特に、明きよ(排水溝)の間隔が3mより広い圃場では、明きよの間に新たに明きよを設ける方が収量・品質ともに向上するので、その土を土入れに使いながら作溝する(写真2)。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>写真1 土入れ(同時作溝)作業 写真2 整備された明きよ(排水溝)</p> <p>イ 踏圧</p> <p>これからの踏圧は、無効分げつ抑制、発根促進及び倒伏を軽減する目的で茎立ち期までに15～20日間隔で行うが、土壌が湿った状態で踏圧すると、土が固くしまって根の発育が悪くなり逆効果となるため必ず乾燥状態で踏圧する。また、極端に播種が遅れ茎数の少ない圃場では、生育量の確保のため踏圧は控える。</p> <p>ウ 中間追肥</p> <p>麦が窒素不足になって黄枯症が出ている圃場や播種後に湿害が出た圃場では、穂数確保のための中間追肥を、遅くとも2月上旬までに窒素成分で10a当たり2kgを限度に追肥する。しかし、多過ぎると倒伏に結びつくので過剰にならないようにする。追肥は土入れ作業と併用して行うとより効果的である。</p>

項 目	作 業 内 容																											
(2)水稲の育苗 準備	<p>播種が大幅に遅れたり、湿害が発生した圃場では、積極的に追肥する。</p> <p>エ 雑草防除 湿害で麦の生育悪かったり、条間の広いドリル播栽培では、麦自体の雑草抑制効果が低く、これから気温が上昇し、雨が多くなってくると一気に雑草が繁茂するので、雑草の幼植物がみられる圃場では、節間伸長期までにハーモニ剤を茎葉処理する。</p> <p>オ 穂肥時期 近年は暖冬の年が多く、麦の穂肥施用は2月下旬頃からであったが、今年産麦は、昨年に続き出芽期以降の低温で生育が遅れている。農林水産研究所が開発した出穂予測プログラムによると、11月20日に播種したマンネンボシでは今後の気温が平年並みに推移すると仮定した場合の出穂予測日は4月1日(平年3月30日)で、穂肥の施用時期は出穂前30~25日であるため今年の穂肥適期は3月2日~3月7日で、2月の気温は低いとの予報から、例年よりもさらに遅くなる見込みなので注意する(表1)。</p> <p>表1 農林水産研究所のマンネンボシ出穂予測プログラムによる穂肥時期予測 (1月23日現在：松山市上難波)</p> <table border="1" data-bbox="475 1220 1369 1464"> <thead> <tr> <th rowspan="2">播種期 (月日)</th> <th rowspan="2">出穂期 (月日)</th> <th rowspan="2">穂肥時期 (月日)</th> <th colspan="3">今後気温の推移と出穂期</th> </tr> <tr> <th>+1</th> <th>-1</th> <th>-2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11/10</td> <td>3/28</td> <td>2/27~3/3</td> <td>3/25</td> <td>3/30</td> <td>4/2</td> </tr> <tr> <td>11/20</td> <td>4/1</td> <td>3/2~3/7</td> <td>3/30</td> <td>4/4</td> <td>4/7</td> </tr> <tr> <td>12/1</td> <td>4/6</td> <td>3/5~3/10</td> <td>4/4</td> <td>4/9</td> <td>4/11</td> </tr> </tbody> </table>	播種期 (月日)	出穂期 (月日)	穂肥時期 (月日)	今後気温の推移と出穂期			+1	-1	-2	11/10	3/28	2/27~3/3	3/25	3/30	4/2	11/20	4/1	3/2~3/7	3/30	4/4	4/7	12/1	4/6	3/5~3/10	4/4	4/9	4/11
	播種期 (月日)				出穂期 (月日)	穂肥時期 (月日)	今後気温の推移と出穂期																					
+1		-1	-2																									
11/10	3/28	2/27~3/3	3/25	3/30	4/2																							
11/20	4/1	3/2~3/7	3/30	4/4	4/7																							
12/1	4/6	3/5~3/10	4/4	4/9	4/11																							
<p>注) 穂肥時期は今後の気温が平年並に推移した時</p> <p>ア 用土 水稲育苗時の障害発生を軽減し、健苗を育成するために最も重要なことは育苗用土のpH調整であり、育苗時の様々なトラブルはこれから起因することが多く、さらに次の点に注意しながら用土の準備を行う。</p> <p>(ア)育苗用土には病原菌を含まず、通気性や肥料持ちが良く、pHの低い壤土や砂壤土が望ましく、山土等が適している。</p> <p>(イ)育苗用土の好適pHは4.5~5.5(早期栽培では4.5~5)で、これより高い場合は必ず硫黄華等で矯正する。100kgの土のpHを1下げる硫黄華の量は、壤土で80g、砂壤土60gであり、pHが低下するには約1か月かかるので早めに調整しておく。10a当たりの用土量は、疎植栽培で苗</p>																												

項 目	作 業 内 容
	<p>箱数を 15 枚とすると、山土などの自然の用土は床土と覆土で 60～80；人工成形した粒状培土は 45～55kg である。</p> <p>イ 種子更新</p> <p>自家採種した種子を数年使用すると、混種や交配及び変異により、品種本来の能力が発揮できなくなり品質・収量の低下を招くため、3年に1度は必ず種子更新する。</p>